



こと言の葉 kotonoha

築館高等学校 図書館だより
発行：令和元年12月2日
文責：司書 佐藤

12月です。令和元年最後の月になりました。一日一日寒くなる毎日ですが、みなさん体調は大丈夫ですか？ 暖かい部屋でじっくり読書などはいかがですか？私は、高校生（何年前！？）の頃に大人気だった「村上春樹さん」と「よしもとばななさん」の作品をもう一度読んでみようと思っています。あの頃は「何が言いたいのかわからない……」などと思いましたが、大人になってから読めば何か違うかも……と期待しています。みなさんも同じ本をもう一度読み返すのも楽しいかもしれませんね。

校内読書感想文コンクール最優秀賞

図書館だより10月号で校内読書感想文コンクールの結果についてお知らせしました。これまで、読書感想文集を発行し入賞作品を紹介していましたが、今年度より感想文集の発行は行わないこととなりました。今年度の最優秀作品を図書館だよりで紹介します！

努力すること

「羊と鋼の森」 宮下奈都 著 文藝春秋 出版

2年2組 曾根 愛

ある一点に向かって努力するという根本的な問題が、私にはどこか欠けているような気がした。どうにかして楽に生きたい、努力なんて面倒だ、と思ってしまう自分が心の中に潜んでいる。いつしかそんな自分に違和感と情けなさを感じていた。

私は高校二年生で、来年受験を控えている。受験が怖い、でも勉強はしたくない。そんな身勝手な思いが私を襲い、どんどん心にその思いが淀んでいった。

そんな時に会った本が、宮下奈都の著書「羊と鋼の森」だ。主人公の外村が高校生の時にピアノ調律師の板鳥と出会い、様々な人たちや音楽と向き合うことによって、調律師として成長していく物語だ。

外村は音楽とは無縁の人だったはずだった。ピアノも触ったことがない。そんな外村だが、調律に魅せられ、心打たれ、数年後には調律師になっていた。私自身、興味のないものには耳も貸さない。だから、もし調律していた場に居合わせていたとしても、きっと聞き流していただろう。外村の人間味溢れる姿、純粋で鮮明な心、調律に真摯に向き合う様子に、同じ人間として何か学ぶものがあった。

板鳥が外村に声をかけたときの言葉が、簡素ながらも印象に残っている。

「焦ってはいけません。こつこつ、こつこつです」

思わず気が遠くなってしまおうような言葉だが、心なしか少し力が抜けたような気がしたのだ。だが、最初は否定した。何でも直前にまとめてやってしまう私にとって、縁遠い言葉だったからだ。また、その後の言葉。

「ホームランを狙ってはだめなんです」

勉強に思い悩んでいる私にとっては、すぐに応用問題に手を出すことはせず、基礎からこつこつやりなさいと解釈できた。板鳥の心が包まれるような口跡に、私は焦燥していたのかと自覚し、自分を見つめる機会を得ることができた。

外村がある双子の姉妹の調律に行った時に、そのピアノをかえってだめにしてしまった場面がある。失敗した外村だが、私は好感が持てた。真面目にこつこつピアノと向き合ってきた外村。努力してきた人でも、失敗は必ずあるという現れのような感じがした。失敗を恐れては、何もできないし、始めることすらできない。失敗した後も外村は、先輩からのアドバイスを素直に受けとめ、決して挫折することなく、ピアノに対してひたむきに取り組んでいたのだ。そんな外村の前向きな姿勢に、私は少しの「勇気」をもらった。

私はふと思うことがあった。何事にも、才能が必要なのではないか。生まれ持った才能が、実力を左右させるのではないかと。そんな時、外村の先輩にあたる柳の言葉が胸に響いた。

「才能っていうのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないか。どんなことがあっても、そこから離れられない執念とか、闘志とか、そういうものと似てる何か」

この言葉にはっとさせられた。才能とは、誰でももつことができる。もちろん、自分にも。要するに、自分が物事に対してどれだけの熱量を注げるのか、どれだけ真剣に向き合うかによって変わってくるのではないか。

私は自身の学習に、熱量を注いでいただろうか。闘志を持ち合わせていただろうか。自分が楽をすることばかりを考え、根気や情熱を十分に注ぐことができなかった。自分の気持ち次第で、視野も世界もいつだって広げることができるのに。

「外村くんみたいな人が、たどり着くのかもかもしれないなあ」「なんというか、まっとうに育ってきた素直な人」

いつも厳しい言葉をかけてくる先輩調律師、秋野が外村に対して言った言葉。秋野の言葉の内には、いつも調律師としての的確な視点と人間の深い情が込められている。「たどり着く」というのは人によって捉え方は違えども誰にでもゴールはある。目標でも、人生でも。自分に素直になることが、どこまでも歩き続けられるということなのだ。自分は今どうしたいか、どうなりたいか。違う視点で自分を見つめ、高め、一步一步、少しずつ前を向いて歩けるような人になりたい。

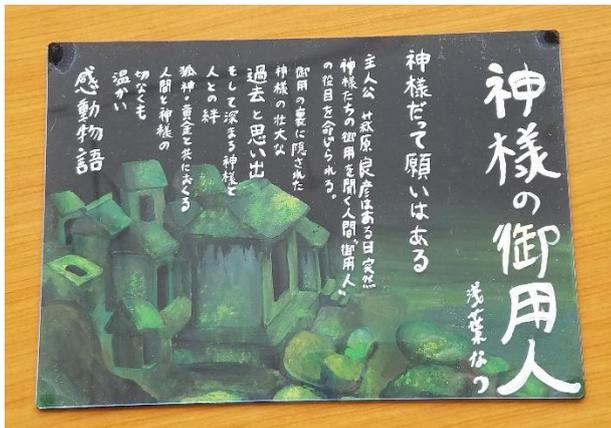
頑張っている人、まっとうに生きている人は、みな努力をしている。少々の失敗も交えながら。未来に不安や恐れを感じている人は自信がなく、努力をしていないのだ。何事も、時間をかけて、迷っても良いから自分の信じた道をはたき進んでいくしかないのだ。そのことを外村から教えてもらった。人間として大切なことに気づいた私は、少し心が軽くなった。

夏の熱い日差しが、私を輝かせているような、応援してくれているような、そんな気がした。

私たちの学校のピアノも、誰かが努力して成し遂げた、勲章の響きなのだろうか。

表彰は 12 月の全校集会で行います。(優秀賞・佳作については教室で行います)

POP作品コンクール最優秀賞 おめでとうございます！



築高 HP でも紹介しています！写真では立体感が分かりにくいのが残念ですが、不思議な雰囲気と美しさを感じていただけたと思います。



宮城県教育委員会が実施している『「わたしのおすすめしたい本」ポップ作品コンクール』において、本校2年生の菅原真生さんが高等学校の部で最優秀賞を受賞しました！おめでとうございます！

「神様の御用人 浅葉なつ 著 KADOKAWA 出版」をおすすめしたいとポップを作成した真生さん。素材を紙ではなくアクリル板を使うという斬新なアイデアでチャレンジし、素敵なポップに仕上げました。下のアクリル板に神様をイメージした苔の生えた祠を描いて美しさと思議な雰囲気表現し、透明のアクリル板に文字を書いたものを重ね立体感を出しました。

11月30日(土)に宮城県図書館で表彰式が行われました。入賞作品は12月15日(日)まで1階エントランスホールに展示されます。

みなさんも時間があればぜひ足をお運びいただきご覧ください。